

ウイルスの次にやってくるもの

6月26日（金）

東京都などでまた感染者が増えてきています。「職場内クラスター」が増えているようです。学校においても日常が戻ってきましたが、先生たちからは「ハンカチを持ってきていない子が学年があがるほど多い。」という嘆きの声も聞かれます。各家庭においても、ハンカチ、部活動用のタオル、水筒などを持って登校しているのかを確認してください。タオルなど身につける物は学校で貸し出すことができません。

日本赤十字社が公開した「ウイルスの次にやってくるもの」と題するメッセージ動画は、200万回以上再生され、注目を集めています。感染症にまつわる「恐怖」が人々の心にどう広がっていくのかや、恐怖に飲み込まれないための対応策を、絵本風にして提起しています。

暗いニュースや間違った情報を餌にして大きくなる「恐怖」は、人々に猜(さい)疑心や被害者意識を生じさせ、「感染が広がったのはあいつのせいだ」などと、他者への攻撃や、人間関係の分断をもたらすとしています。感染していたら自分もその対象になる、という恐れから、体調不良を隠すようになり、かえって感染の拡大につながる、と警鐘を鳴らしています。

動画は、恐怖による感染の負のスパイラルを断ち切るために、▽時にはパソコンやスマートフォン(スマホ)を消して、暗いニュースばかりを見過ぎるのはやめる▽不確かな情報をうのみにせず、考える▽誰にもわからないことは、誰にもまだわからないことでしかなく、そのまま受け止める▽非難や差別の根本に、自分の過剰な防衛本能があることに気付く▽家族や友人と話し、生活習慣を整える…などの対処法を提案しています。

今、誰もが見えないウイルスに対する恐怖を感じています。「感染したくない」という心理から、見えやすいもの、わかりやすいものをターゲットにして「安心感を得たい」という気持ちも、誰の心の中にも潜んでいます。

木曜日の職員会議でもこの動画の紹介を行いました。この動画を使った授業を道德の授業や「さくら学級」の紹介の中でやって欲しいと担当者をお願いしています。「ウイルスの次にやってくるもの」で検索してください。とてもよくできている動画です。3分余りの短い動画なので、家庭でも様々な偏見について話ができると思います。参考まで。

さて、真夏のような天気が続いていましたが、昨日から梅雨空が戻ってきました。そんな中、生徒たちは元気に学習に励んでいます。理科の授業では難聴学級の生徒が在籍しているので、先生は口元が見えるようにフェイスシールドをつけて授業を行っていました。



今日は1年生の正式入部の日ですから、本来の活動場所で活動ができればよいのですが…。しばらくは梅雨らしい天気が続きます。あまり張り切りすぎず、徐々に体を作っていきましょう。